

第2回芦田川の今後を考える学識懇談会

平成17年4月27日(水)

【A】 それでは早速でございますけれども、会議のほうに移らせていただきたいと思います。

まず開催に先立ちまして、傍聴者の皆様並びに報道関係の皆様をお願いがございます。会場の都合上、人数の制限がございますので、限られた席しかご用意しておりません。ご了承をお願いいたします。

また、傍聴のほうにおきましては、懇談会の議事進行を聞いていただくというものでございます。途中での発言あるいは拍手などにつきましてはご遠慮をお願いしたいと思います。

また、携帯電話等をお持ちの方につきましては、申しわけございませんが、マナーモードまたは電源をお切りになっていただくよう、よろしくご協力をお願いします。それから、議事進行の妨げとなりますような写真の撮影等はご遠慮をお願いいたします。それからまた、報道関係の皆様につきましては、会議の冒頭のみのご撮影でご協力をお願いしたいと思います。

さらに、録音等につきましては、発言の一部のみを取り出すためのことにつきましては、発言の趣旨が誤解されるおそれがございますので、その点十分よろしくをお願いしたいと思います。

以上で、ちょっと全体に先立ちましてお願いごとを申し上げました。

次に、会議をこれから開催させていただくわけでございますが、その前にお手元の資料のご確認をさせていただきたいと思っております。机の上に資料を配付させていただいておりますけれども、本日の配付資料一覧表にございますように、会議次第、委員の名簿、席次表、それから資料-1といたしまして住民の皆さんのご意見をまとめたもの、さらにニュースレターということで住民の皆さんにいろんな情報提供をした資料を用意させていただいております。

会議の議事の内容でございますが、本日の会議の内容におきましては、主に住民の皆様のご意見ということで、過日、府中市ならびに福山市で行いました住民説明会のご意見、あるいはアンケート、そういったものにつきまして取りまとめてございます。その報告を

行いまして、本日のご視察の感想も含めまして、ご意見をいただければと思います。

時間が押し迫っておりますけれども、よろしくお願ひしたいと思います。

それでは、会議の開始に当たりまして、本会の委員長でございます福山大学のE先生よりごあいさつをお願いいたします。

【E 委員長】 本日は大変お忙しいところ、皆様、現地の視察、さらにはこれからの会議ということでお集まりいただきまして、大変ありがとうございます。現場を見ていただくということは大変重要なことでありまして、すでに十分ご承知の委員の皆様もいらっしゃいますが、現状の再確認ということで、本日ずっと川を回らせていただきました。ほんとうに過密なスケジュールでございますけれども、これからもどうぞこのこれからの会の進行に対しまして、忌憚のないご意見あるいはコメントをいただきたいと思ひます。

あまり長々としゃべっても時間のむだだと思ひますので、本日は先ほど司会が申しましたように、住民のご意見、そういうものをご紹介をして、皆様にご認識をいただき、あるいはコメントをいただく、こういうことであろうかと思ひます。

それでは、早速事務局のほうからご説明をお願いいたします。

【C】 それでは、事務局のほうから説明させていただきます。資料のほうは資料 - 1、住民意見についてという、ちょっと冊子にしておりますけれども、こちらを使いまして、簡単ではありますが説明をさせていただきます。

まず、1ページでございます。住民説明会を行いました。上流域、下流域に分けまして、府中市におきまして2月23日、それから下流域におきましては福山市のほうで2月24日、合わせまして約100名の方のご出席をいただきまして、説明会を行っております。

この中で、住民の皆様から意見が出ましたものを2ページのほうに簡単に取りまとめております。表を見ていただきますと、種別ということで、一番左側、計画の目標について、それから治水事業に関すること、河川の流量に関すること、水質の改善に関すること、川の中の樹木ですとか生態系に関すること、今後の川づくりに関すること、関係機関との連携とか、意見の聞き方というような、こういう大きな項目に整理ができました。中身につきましては、時間の関係もありますので、読んでいただくということで飛ばさせていただきます。

それから、3ページでございます。アンケートをいただいております。アンケートにつきましては先ほどの住民説明会の会場で、それぞれ府中のほうで39、福山のほうで26、それから現在もまだ続けておりますけれども、当事務所、それから市役所等におきまして

アンケート用紙を配布いたしまして、アンケート調査させていただいております。現在まで、合わせまして約230票ほどの回答をいただいております。

3ページ、4ページにアンケートの結果をまとめております。簡単にかいつまんで説明をいたしますと、まず、3ページの上の段の円グラフでございます。これは回答していただいた方の属性ということで、性別、年齢、住んでいる場所の仕分けでございます。それから中段以降が質問に対する回答でございます。1番、これは洪水についてということで、まず洪水について不安を感じているか。それから質問の2といたしまして、洪水対策が必要かというような質問をしております。これにつきまして、洪水について不安を感じているという方が約6割、それからその対策が必要であるというふうに思われている方が6割強というような円グラフの結果でございます。

4ページ、こちらのほうは湯水についてという質問をしております。問いについては、湯水について不安を感じるか、それから湯水に対する不安を減らすための対策はどのようなものがあるかということで質問をしております。

上段のグラフ、左側の円グラフですけれども、湯水に対する不安を感じている方、約3割、それから感じていないというふうに回答されている方が約半分というような結果になっております。

それからそのグラフの右側、棒グラフがありますけれども、これが湯水に対する不安を減らすための対策ということで、これについては、節水であるとか、それから関係機関との調整をするというような対策が上位を占めております。

グラフ中段、これは水質についてという質問です。問いといたしましては、芦田川の水はきれいだと思うか、それから今後どのような対策が必要かというような質問をしております。円グラフのほうを見ていただきますと、水がきれいかという質問に対しましては、思わないという回答が8割を超えております。

それからその右側ですけれども、水をきれいにするための対策が必要かという質問に対しまして、具体的には、8割の方が下水道の整備、合併浄化槽の設置、それに続きまして家庭での排水の削減というようなことが必要だということで、こういったものが上位に来ております。

続きまして、生物についてという質問をしております。芦田川は動植物の生息・生育環境が豊かかと、こういう質問に対して、そう思うという方が25%、約4分の1、思わないという方が47%というような結果でございます。

最後、これからの川づくりということで、これから芦田川をどういうふうな川にしていきたいかということで、そこにある洪水、水利用、魚とりや水遊び、散策やレクリエーション、動植物を重視、それから環境学習としての場、こういった項目の川づくりについて、どれが一番あなたにとって優先度が高いですか、このような聞き方をしております。

洪水というところを見ていただきますと、洪水を最も優先すべきだという方が水色の部分、これが約6割ぐらいの方。それから水利用を見てみますと、一番多いところが黄色い部分です。したがって、水利用の観点での整備といいますのは2番目ぐらいがいいという方が一番多いというようなこのグラフの見方をしていくわけでございます。3番目、魚とりや水遊び、散策やレクリエーションといった、主に我々が川を使うという立場での考え方、これが非常に順位が均等になっているかと思えます。それから動植物について、これについて見てみますと、これもやはりまばら、均等になっていると思えます。それから環境学習の場、これについて一番高いのは6番目ということで、優先度としては低いというような結果が出ております。アンケート、これも数が200ということですので、まだ今からアンケートのほうは進めてまいりますけれども、現時点での結果ということで報告をさせていただきました。

それから6ページのほうには、アンケートをやったときに自由にご意見を書いてくださいということをしておりまして、このときに寄せられたものを簡単にまとめております。治水・利水、それから水質、自然環境、河川空間利用、河川美化、その他ということで分類をいたしまして、それぞれアンケートからいただいた中身を簡潔に整理しております。以上がいわゆる一般の方からいただきましたアンケートの結果の集計、並びにアンケートにおいて寄せられました意見を整理したものでございます。

7ページに参ります。こちらにつきましては、沿川の小学校ですね。福山市で3校、府中市で3校。これは5年生の児童を対象に行ったアンケートの結果でございます。なお、5年生と申しますのは、この学年になりますと地域の社会を勉強するというので、ある程度地域の知識もあるということで、5年生を対象にしてアンケートを行いました。その結果を7ページからつけてきております。

まず、質問については芦田川で遊んだ経験があるかないか。それから遊ばないということについて、なぜ遊ばないんですかということで聞いてみました。回答については、遊んだことがある、これが7割を超えております。その横にあるのが遊びの種類ということで、散歩でありますとか、魚とり、それからボール遊びといったものが上位のほうに来ており

ます。遊ばない理由を聞いてみますと、川から遠いというようなものが一番上位に来ております。それから、危ないからだめだと言われたとかというのが次のような順番に来ているような結果になっております。

8ページでございます。こちらからは洪水についてという観点で質問をしております。洪水になるとどういった危険性が生じるのかというような質問をしております。これに対しまして一番多かったのが、人の命にかかわるようなことが起きる。それから、家がつかるとか作物に影響が出るといったような認識を子供たちが持っているという結果が出ております。それから次に、洪水を防ぐにはどうしたらいいのかという質問をしております。これに対しましては、まず、安全な場所に逃げるといった回答が一番多かったです。それから、その次につきましては、ダムをつくるとか堤防を高くするといった施設の整備を意味する回答が次の順番に来ております。

9ページです。これは濁水についてという観点の質問をしております。芦田川の水が少なくなるとどうなるかという質問をしております。これに対しましては、水洗トイレが使えなくなるということで、いわゆる日々の生活に支障が生じる、それから次に来ておりますのが、魚がすむ場所が少なくなるといった環境的な意味合いの答え。それから田畑とか農業に影響が生じる。こういったような回答になっております。それから、水を大切に使うにはどうしたらいいかという質問に対しましては、話し合いを行って上手に使う、日ごろから節水をする、ダムなどをつくるといった回答になっております。

10ページでございます。次は水質についてという質問をしております。まず、芦田川の水はきれいだろうかという質問に対しましては、きれいとは思わないという回答が65%でございます。どちらともいえないというのが22%というような結果になっております。水質をよくするために必要なことはという質問に対しましては、まず川にごみを捨てないというのが一番でございます。それから食用油などを流さないというのが2番目に来ております。それから若干差を置きまして、下水を整備するとか、水路をきれいにする、こういった対策が必要だというふうな回答がついてきました。

11ページでございます。生物について、こういう観点で質問しております。生物が生息する環境を大切にすることについてどう考えるかという質問をしております。一番上位ですけれども、自然環境を大切にすること。その次に、人間にとっても自然にとってもよい環境にする。これはバランスを保つという観点の回答だと思います。この2つが上位を占めております。それから、これからの川づくりについてということで、これは先ほど大人の

アンケートと一緒に考え方で整理をしております。洪水とか水利用、魚とりや水遊び、その次はレクリエーション、動植物、環境学習としての場といった観点で川づくりをすることが何番でしょうかという聞き方をしております。例えば洪水対策ですと、4割の方が一番これを優先すべきだというような回答になっております。それから魚とりや水遊びというところを見ますと、一番色が多いのが6番目の紫の色ということで、これは魚とりや水遊びを視点として川づくりをしていくというのは6番目でいいのではないかというような回答になっております。

12ページのほうに進みます。自由意見ということで、この小学生のアンケートの中で出たフリーな意見ということで書いております。環境保全や利用という観点での意見、これが多かったと思います。

13ページでございます。これは、今ほどの住民説明会ですとかアンケート以外に事務所のほうに直接意見を言いに来た、電話があった、それからホームページがありますけれども、こちらの中に投稿があったというようなものをまとめております。それをその他ということで13ページのほうに書いております。これは、オオクチバスの放流禁止について、この観点での意見が来ておりました。

それから後につきましてはアンケート用紙のサンプルをつけております。最初のほうが市民の方を対象にいたしましてクエスチョン16番までつけております。それから同じく福山会場でやったものがついております。それから資料の最後から2ページ、こちらが小学校の子供さんを対象にしたアンケートのサンプルとなっております。

以上、非常に簡単ではございますが、説明をさせていただきました。

【E委員長】 どうもありがとうございました。

なかなか内容を追っかけていくのは大変だとは思いますが、何か委員の先生方でお気づきになったコメント等がございましたら、それに対するご意見をいただきたいと思いますが。どなたからでも、どのようなことでも結構ですが。若干の時間をとらせていただいて。

例えば、この住人の大人の方々には50、50という、大体その程度だということですが、けれども、これの回答と、それから子供さん方はたくさんですね、配布枚数が。これはほとんど回収されたわけでしょう。そうではないんですか。自由にとっていただいたということですから、この36のうち33が回収されたというふうに考えていいんですか。例えば箕島では25散布して19だったとか、7ページですね。そのように見てよろしいです

か。

【C】 はい、アンケートが2種類ほどあります。まず3ページのほうは……。

【E 委員長】 いえいえ、子供さんのほう。

【C】 子供さんのほうにつきまして、7ページで、サンプル数のところに括弧書きの数字がありまして、括弧書きの数字をお配りして、括弧書きでないほうが回収された数字ということになっております。

【E 委員長】 ということは、これはほとんど自由意思で小学5年生の方からのアンケートがとれたと考えてよろしいですか。例えば先生の学習指導とかなんとかで、全員強制的とかいうことでも考えなくてよろしいですか。101配ったけれども、102アンケートがあったというふうなことが書いてありましてね、どうでしょうか。それは結構な話で、若い方、子供さん方の関心がこういうふうにあるよということがわかって、大変興味深いと思いましたが。ありがとうございました。

【A】 まず、子供さんのほうは、府中市と福山市の教育委員会さんをお願いいたしまして、芦田川に全く行ったことのないような山の上の小学校の皆さんにアンケートというわけにもございませんので、教育委員会を通じましてお願いいたしました。

アンケートの内容、きょう配付させていただいております資料でございますが、まだ分析も解析も全くできておりません。こういうアンケートをやってこういう意見でしたよということのご紹介でございます。多少それぞれの意見を、例えば6ページあたりに、一番左側に種別として、各分類ごと、こういうような意見がございましたということで分類分けはしてございますけども、我々は皆さんからいただいた意見をもとに、これからの川づくりはどう反映していくのかということだろうと思っております。これからまだまだいろんなイベントを通じて皆様から意見をいただくかというふうに考えておりますので、そういった意見も踏まえまして、そこら辺を十分解析した上で整備計画の中に盛り込めるものについては盛り込んでいきたいなというふうに考えております。

若干、現時点でこのアンケート内容を見ますと、やはりその大人の世代、子供の世代といいますが、世代間は問わず治水、洪水に対しての意識というのは非常に皆さんお持ちなのかなと。まあ、たまたま昨年度台風がかなり来たものですから、それでマスコミ報道等からも、かなりその自然災害等のニュースが多かったものですから、そういった治水面に対する意識というのは子供さんも含めて非常に高いのかなと。それから、特にまた環境面といいますが、生態系を含めると、若干大人より子供さんのほうがこのアンケート

結果を見ますと意識が高いといいますが、学校の総合教育の中でそういうような授業を取り入れておるものですから、そういったこともあるのかなと思いますけども、やはりこれから時代を担う子供たちというのは、環境の意識が現在の大人より強いのかな、こういう印象を持っています。

【E 委員長】 どうもありがとうございました。

ほかに。

どうぞ、I先生。

【I 委員】 ちょっとお尋ねですが、6ページのアンケートに、自由意見のところ治水・利水については今説明がありましたように非常に住民の方々の関心が高いということはわかりましたが、その中で6ページのアンケートの一番下のところの、八田原ダムの運用の見直しによる治水安全や利水安全の向上というふうにまとめられておる点ですが、これはどういうことでしょうか、具体的に言えば。

【A】 このご意見は、先ほど説明しました、福山市と府中市で説明会を行ったときに寄せられたご意見の一つでございます。八田原ダムができて治水安全度というのは大幅に向上したわけでございますけれども、やはり河道の整備といいますが、そこがまだ十分ではないというところがあるかと思えます。川沿いに住んでおられる方につきましては、やはり大雨のたびに心配だということで、八田原ダムの放流基準といいますが、操作等を踏まえて、より安全な治水対策をお願いしたいというご意見だというふうに理解してございます。

それから利水安全度につきましては、これは私どものPR不足だろうと思っておりますけれども、八田原ダムができましたのは平成10年でございますが、平成6年に大湯水がこの備後地方を襲ってございます。それと同じような状況になりましたのが、平成14年でございます。14年のときには八田原ダムが完成しておりまして、断水というようなことはございませんでした。その点我々がもう少し努力して、平成6年と同じような状況だったんですが、こういった施設でもって被害が軽減できましたよと、そのPRあるいは広報というのがちょっと不足しておったのかな、そういった点を我々これから注意していかなくちゃいけないなと、そこら辺を多分ご心配された意見ではないかなというふうに感じております。

【I 委員】 きょう現地での説明で、降雨量の非常に多い豪雨の年、あその八田原ダムの水位が上がってそれを放流する。それと今度は河口堰の堰の問題、これがよそに例の

ない治水上の一つの問題点だというふうに説明をいただいたように思うんですが、この点についての対応というのは、ここでは見直しという意味の中には含まれていないわけですね。

【A】 住民の皆様のご意見としては、そういった一般的感覚といたしますか、そういった意味合いでのご意見だろうと思っております。それはそれといたしまして、我々が今考えておりますこれからの川づくりにおいて、より安全な河川、すなわち治水安全度の向上をどのようにしていくのかというようなことを、まさにこれから計画の中で今検討しておりますけれども、そういった中で河道で受け持つ、洪水をどれだけ受け持つのか、あるいは現在のダムを有効活用してどのような操作をすればさらに治水安全度が上がるのか、そういったところをまさに検討していく項目ではないかなというふうに考えております。

【E 委員長】 ほかにご意見、お気づきの点ございませんでしょうか。

【F 委員】 一般論で申しわけないんですけど、こういうアンケート、基本的に意識を調べてますよね。で、意識と実際客観的な事実との間に必ずしもあまり一致しないときと、一方でよく住民の方は見られていますから鋭い指摘がある場合と、二通りございまして、だから多分これ、いろいろこういうことがあるよという話のときに、そのところはちゃんと見つけるということ、しっかり事実はどうなんだというのと、一方で客観的事実と対応をとれないところは、方法とか、今さっき言われたようなそういうところの補足が関係してくるでしょうから、そのあたりを今後ちゃんと調べられて、よろしく整理対応していただきたいと思っておりますけど。

【A】 ありがとうございます。我々もこれから中身を分析して、計画に盛り込めるところにつきましては盛り込んでいきたいと思っております。ありがとうございます。

【E 委員長】 ほかにございませんか。これは地域今2つですけども、まだ流域の河道のいろいろなところで同じようなことをやられるわけですね。先ほど説明がありました。

【A】 常にホームページを開設しております。ご自由にご意見いただけるような体制をとっておりますし、それからお手元にニュースレターという、最後のほうにお配りしておりますけれども、これを各自治体を通じて市民の皆様にご自由にとって見ていただくというようなことになってございまして、いつでも結構です、電話でもファクスでも、あるいはインターネットでも受け付けておりますというようなことをしております。

また、いろんなイベントがございます。そういったたびに皆様のご意見を伺うというようなことで、まだ意見がいろいろと出てくるのかなというふうに考えております。

【E 委員長】 これ、今、表1で書かれておりますね。上流域を代表する、下流域を代表するというで一応ご意見をいただいておりますけれども。あるいはこれがちょっと別の部分でまたという、これからのスケジュールのことを今聞いてもいけないのかもしれませんが、これで終わりということではないでしょう、住民の意見というのは。

【A】 そうです。住民説明会というものにつきましては、ここでさせていただきまして2月下旬に、それぞれ上流域と下流域でさせていただいたんですけれども、当方は、まだ計画をお示ししておりませんので、これはあくまでも、現状と課題、皆さんに芦田川の現状についてより認識を深めていただくということで説明会を行いました。で、そういった現状に対してどうでしょうかということのご意見をいただいております。こういったご意見を踏まえまして、また学識者の皆様のご意見も踏まえて、これからの計画を策定して、その計画につきましてさらにもう一度住民の皆様にご説明する必要があるのかなというふうに考えております。

【E 委員長】 ありがとうございます。ほかにお気づきの点。はい、H先生。

【H 委員】 2ページの河道内樹木のところと、それから6ページの自然環境の欄にも、河道内に樹木が多過ぎるというご意見がございますが、私も一般的に、太田川とか江の川も含めてですけれども、やはり河道のある樹木というのはある程度整理したほうがいいんじゃないかと思っております。いろいろ動物のほうの方々からは、非常に樹木は貴重だとおっしゃるんですが、私は植物のほうから見ますと、治水の面もありますし、環境の面からもある程度伐採といいますか、処分したほうが植物にとってはいいんじゃないかなと。

それから本日ちょっと気になりましたのが、この地図の中央あたりに中州の樹木の発達というところがございますね。で、バスでそのところを説明されたんだろうと思うんですけれども、走ってありましたものですから。その樹木はほとんどニワウルシあるいは別名シンジュといいます外来の樹木が多かったように思うんです。それが悪いというわけではないんですが、できればやはり芦田川に本来ある柳を主体にした自然の樹林のほうがよるしいんじゃないかと思えます。河口堰のところにもやはりニワウルシの密生したところがありまして、やっぱり一種の帰化植物ですので、1本、2本があるのはいいですけども、樹林のようになるのは外来の樹木ですから好ましくないというように考えます。

以上です。

【E 委員長】 どうもありがとうございました。

K 委員。

【K 委員】 私、K と申しますが、きょう芦田川を調査しまして、感じたことを一つ申し上げておきたいと思いますが、私の専門はかんがい排水、農地造成でございますので、まず、芦田川の水利用がどういう状況にあるか、あるいはまた治水として、いわゆる農地排水がどうなっているかという観点で見えておりましたけれども、水利用の頭首工が非常にたくさんありますね。で、農業用水の利用としてはよくやられているんじゃないかなという実感がありました。ただ、排水の問題としては、排水機場は説明を1つだけ聞いて、あとはどうなっているのかなというような感じで、やっぱり農用地の迅速な排水というのは大変重要ですから、河川の管理という立場からすれば、大変重要な面もあって、大変関心を持っておりますので、今度来たときにはそういった点も調べさせてもらったらどうかと思っております。

で、全体としては芦田川の水はきれいだなという印象で、河口堰も水がきれいだなという感じを受けましたね。それから国土交通省が大変その地域住民にサービスがいいなど。あんな河川敷をあのように整備されて、僕はあまり見たことがないんですけども、大変よくサービスされて、これだったら川に対して地域住民も大変関心を持っていただけるんじゃないかという感想を持ちました。

これが私の感想ですが、ただ、6ページのアンケートでちょっと気になるところがありましたので、ここで確かめるというか、感じたことを述べさせてもらいますが、治水・利水とありまして、下のほうですけども、「都市化による溢水の一時的河川への流入」云々がありますけれども、これはおそらくは洪水の場合の一時的に水をためておくという意味だと思んですけども、これは一つの考え方としていいと思いますけれども、休耕田というのはダイメイセイがやるのではなくて各農家がやりますので、必ずしも広い面積で水を遊水しておくという面積にはなっていないので、この辺はちょっとどうかなという気がしますが、できる限り迅速に排出するということは大切なんですね。で、農業利用の立場からすれば、作物が水につかった場合に、例えば稲であれば穂ばらみの時期とか出穂期ですとか、こういうときに水に一日つかったらほとんどだめになっていくわけですね。ですから作物の時期によりますけれども、作物がどのくらい水につかったかということなんですね。例えば米の場合、水稻の場合だったら、その出穂期の場合、一時だとか、そういう基準に従って、逆に今度は排水のやり方をどういう形にするかと必ず設計するわけですけども、そういったことがなされているのかどうかということがありますね。ですからやたらと遊水地を使うわけにはいかないということなんですね。これはアンケートの意

見としてもう一度後で確かめてみたい。

それから水質の問題で河口堰の湛水区間の汚泥しゅんせつとありますが、私は児島湖の水質浄化で農水省が今ヘド口のしゅんせつをやっているわけです。これで今年度一応もう終わっていますけどね。ですからヘド口を取ることによって水がどのようにきれいになるかということは大変関心のあるところですね。確かに児島湖の場合にはヘド口を取るによって水質が若干きれいになったということがあるわけですがけれども、この河口堰のヘド口を取るによって芦田川の水が河口堰の辺がきれいになるのかどうか、これは国土交通省が検討する課題かなという気がいたしますね。

こういった問題が、この2つの点が大変私は関心があって、このアンケートで言われている方々ともっと意見を交換したいなと、こんなふうに思っております。

【E 委員長】 どうもありがとうございました。時間的なことを、私、何も考えてなかったんだけど、どのぐらいのタイムスケジュールで進めればよろしいでしょうか。

【A】 恐れ入ります、既に時間オーバーしております。

【E 委員長】 ということは、もう予定の5時なら5時ということのタイミングがと思えばよろしいんですね。

【A】 先生方、お忙しい、急がれる先生もおられますので、恐れ入ります。

【E 委員長】 そういうことで、現地をきょうは見ていただくということが第一の我々委員の役目といたしますか、現地認識ということで見させていただいたんですけども、住民のアンケートもありましたということで、今総合的にK先生もきょうの視察のご意見も、お気づきの点も言っていただきましたので、このアンケート内容にかかわらず、きょうのご視察の結果でも結構ですから、何かお気づきの点がございましたら、どうぞ。5分もございませんが。

【J 委員】 私は水の中の生物ということで参加したわけですが、特に水質の問題ですね。悪い、悪いと言われてるけども、透明度はそんなに悪くないんですね。多分水質が悪いというのは、それこそマスコミなんかの報道でN/P比がワーストワンだとかBODが何とかというようなことで、そういったことがしみ込んでいるんじゃないかと思えます。

それは置いておいて、芦田川はきょうもたくさん見せていただいたんですけども、芦田川の本流の水というのは、支川の水で形成されているわけですね。たくさん加わっている。そういうときに芦田川の本流だけを考えると、それで芦田川がよくなるかということで

すね。特に芦田川の支流・支川を管理している県なんかとの連携です。これはどういうふうになっているか。そこら辺をうまく、芦田川を形成しているいろんなものが一体にならないと、本流だけ取り上げてもどうかと。

それから水質をきれいにしてくれと言うんですけども、水質を悪化させるのは人間なんですよね。で、きれいにしてくれではなしに、きれいにしましょうというのがほんとうだと思っんですけども、そこら辺の意識の持ち方とかPRの仕方とかというのがアンケートを読んで気になりました。

【E 委員長】 おっしゃるとおりだと思います。

【A】 大変貴重なご意見いただきました。

まず前段の要は流域対策を含めてということでございますが、これは「清流ルネッサンス」ということで、関係自治体等含めまして、協議の場を設けて今進めてございます。まさに下水道整備、あるいは家庭からの雑排水の低減というようなことで、今進めているところでございます。

また、住民の皆様のご協力を得られるということの取り組みとして、住民の皆さんが主体となった環境マネジメントセンターというものを昨年度立ち上げられまして、皆さんが主体となった対策を進めていこうと、我々はその支援をしていこうと、こういう取り組みをやってございます。簡単でございますが。

【J 委員】 私が知らないことがたくさんありまして、済みません、ありがとうございます。

【E 委員長】 どうもありがとうございました。

一応各委員の先生方の一言ずつのご発言をいただいたということなんですが、ほんとうにまだまだ立ち上がったばかりの、今後を考える懇談会ということなので、これからのいろいろタイムスケジュールもあろうかと思っておりますので、きょう第2回目ですけども、次のステップはどうなっていくのだろうか、我々はどのような参画をしていけばいいかというようなことにつきまして、今後のスケジュールについて事務局のほうからご説明いただきたいと思っております。

【C】 本日第2回ということで、現地を見ていただきましてご意見をいただいたところでございます。それでまた住民の方のほうにつきましては説明会を行いました。またアンケートも今も受け付けをしております。そういった皆さんのご意見を整理し分析しながら、我々河川管理者としての考え方をまずまとめまして、それを踏まえた形で整備計画の

案をつくっていこうというふうに考えております。案ができましたら改めてまた皆様にご提示をいたしまして、それに対するご意見をいただきたいと思っております。そういうふうにしていきまして、最終的なものをつくり上げていきたい、このように考えております。大きな流れは、今申しましたような流れで進めていこうと思っております。

【E 委員長】 タイムスケジュールとしての何月ごろというような具体のことは、まだちょっとここでは 秋ですか。それとも年度の終わりになりましょうか。その辺のことを、おおよそのことをお願いいたします。

【A】 申しわけございません。我々も精いっぱい努力しております。実は水面下で関係機関との協議を事前に進めさせていただいておりまして、近々というふうに言いたいところでございますが、もうしばらくお時間をいただきまして、ある程度原案がまとまった段階でご説明させていただければというふうに思っております。目標としましては、この秋に策定をして公表をするというふうにしておりますので、それまでに原案の学識懇談会への説明、あるいは住民の皆様への説明というのがまだまだ残っております。それらを踏まえまして、秋には策定したいというような目標を立ててございます。あくまで目標でございますけれども、そういった大きなスケジュールの中で進めさせていただければと思っております。

【E 委員長】 どうもありがとうございました

ということで、大変タイムスケジュールも過密になっているように思いますが、関係機関ともいろいろ協議をなさって、整備計画案をできるだけ早くおつくりになっていただきたいと思っております。我々も、ほかの委員会と申しますが、県のほうの整備計画も並行して進んでおりますので、それぞれの先生方、いろいろ参画なさっておりますので、本体があまりおくれると困るなというのが実情で、感想でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは時間的にあまりきょうのまとめというのは、最後にいろいろコメントいただいたようなことをもう一度ご検討いただいて、今ご説明がありましたようにアンケートも今の現状をご披露していただいたということで、これからその内容の分析とか精査していただくということを踏まえまして、そういうことを事務局にお願いいたしまして、我々の委員会としてはきょうはこれで閉めたいと思っておりますが、事務局へお返しして。

【A】 どうもありがとうございました。

時間がなくて申しわけございませんでした。先ほども委員長から今後のスケジュールを

十分考えるようにというご指摘をいただきました。早急に計画を進めていきたいと思っております。

最後に、私どもの事務所長のLからごあいさつを申し上げますので、よろしくお願いいたします。

【L】 きょう、現地をちょっと失礼しまして、申しわけございません。午前中、府中市の土生というところで河川広場の竣工式を上げておりました、申しわけございませんでした。

先ほど来現地視察に行って川が、水がきれいだとおっしゃってましたけれど、きょうは特別きれいだったような気がします。僕も河口からずっと上がっていくのに、あれ、きょうは少しきれいになっているな、透明感もあるな、春だからかなと思ったりしておったんですけれど、もうちょっと季節によってはかなり見えるところがございます。きょう見ていただいたと思いますので、これで現地をご認識していただいたと思っております。引き続きまたタイトなスケジュールかもしれませんが、またひとつよろしくご指導のほどお願いしたいと思います。きょうはどうもありがとうございました。

【A】 どうもありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、第2回目の芦田川の今後を考える学識懇談会を閉会させていただきます。本日はどうもありがとうございました。

了